

研修レポート

2016.8.8-9.4 豊橋市民病院 R2

新城市民病院総合診療科の先生方をはじめ、看護師さん、コメディカルスタッフの方々事務の方々には4週間大変お世話になりました。ありがとうございました。自身の問診の甘さや診察技術の未熟さを実感し、振り返りでの先生方のご教授を頂けることは大変勉強になりました。また、看護師さんや訪問看護、訪問リハビリ、施設訪問にかかわってくださった方々には、貴重なお時間を頂きながら丁寧な説明をしていただき、ここでしか知る機会のなかった知識を得ることができました。

この研修は私にとって初めて地域診療に触れる機会であり、驚きや考えさせられることの連続でした。まず、入院適応の違いに驚かされ、その背後には老々介護や独居老人といった問題があることに気が付かされました。特に介護については、訪問看護や訪問リハビリでいろんなお宅を伺わせていただきましたが、家族の方の継続した協力の難しさや金銭的な問題など現実に厳しい問題を抱えながら日々過ごされているのだと痛感するとともに、看護師さんやリハビリの先生方の支えの重要性を感じました。一方で、そういった家族背景もあることを考慮し、入院加療とすることで、リハビリをしてもやはりADLの低下が免れない患者さんがいる現実も知り、複雑な気持ちになってしまったことも経験となりました。

私は小児科志望であるため、助産所を見学させて頂けたことは大変貴重な経験となりました。最初は新城市に産婦人科がないことにとっても驚きと危機感を感じており、正直に申しますと、助産所を訪問させていただくときも若干の不安を抱えながら伺いました。しかし実際には、ここでだからこそできると思われるケアが行き届いた、妊婦さんとご家族のそれぞれの希望を叶えることができるアットホームな場所であり、聖隷三方原病院との連携もしっかりしており、安心してお産ができそうな素敵な場所でした。普段から病院でのお産に慣れていたために、よりこちらでのお産のほうが温かい気持ちになれるのではとも感じました。また、公的機関だからこその取り組みや産後の充実したケアもあり、なかなか豊橋市民病院ではできないことをされていて感銘を受けました。

新城市民病院での研修は気が付いたら1ヵ月が終わっていた、充実した時間でした。お世話になった方々に再度深くお礼申し上げます。ありがとうございました。